

# IX. 研修全体のふりかえり・評価

## ● 研修受講者アンケート結果から

※ 以下項目1～4については、教師海外研修受講者を含む開発教育指導者研修(実践編)受講者に行ったアンケートから、教師海外研修受講者(JICA 中部のプログラムに参加した16名)に特筆すべき結果が得られた設問について記載した。

### 1. 研修の満足度について

海外研修受講者は「とても満足できた」が100%であり、指導者研修のみの受講者の71%に比べ、より満足度の高い研修であったことがわかる。【設問1】

設問1：研修の満足度

		全回答数 上段：回答数 下段：割合	回答			
			とても満足できた	満足できた	ある程度満足できた	あまり満足できなかった+満足できなかった
教師海外研修	受講あり	16 100%	16 100%	0 0%	0 0%	0 0%
	受講なし	24 100%	17 71%	6 25%	1 4%	0 0%

※教師海外研修 受講なし：開発教育指導者研修(実践編)のみ受講した者

### 2. 開発教育・国際理解教育の実践について

#### (1) 実践時間及び前年度からの変化

海外研修受講者の一人平均実践時間は18.3時間と、指導者研修のみの受講者の11.0時間に比べ、平均7時間多い。これは、指導者研修のみの受講者と比べ、海外研修受講者で1～4時間の短時間の実践が少なく、20時間以上の長時間の実践が多いことによる。【設問2】

実践時間の前年度からの変化では、海外研修受講者の94%が増加しており、指導者研修のみ受講者よりも22ポイント高くなっている。【設問3】

これらのことから、海外研修受講者は、指導者研修のみ受講者よりも、研修を契機に、前年度よりも実践時間が増加し、実践時間もより多い傾向にあったといえる。

設問2：本年度の実践時間

		全回答数 上段：回答数 下段：割合	回答					一人平均 実践時間
			1～4時間	5～9時間	10～14時間	15～19時間	20時間以上	
教師海外研修	受講あり	16 100%	1 6%	5 31%	3 19%	1 6%	6 38%	18.3
	受講なし	25 100%	6 24%	7 28%	7 28%	1 4%	4 16%	11.0

設問3：前年度に比べた開発教育・国際理解教育の実践時間の変化

		全回答数 上段：回答数 下段：割合	回答		
			増加	変わらず	減少
教師海外研修	受講あり	16 100%	15 94%	1 6%	0 0%
	受講なし	25 100%	18 72%	4 16%	3 12%

**(2) 実践内容の深まりについて**

海外研修受講者は「とても深まった」が88%であり、指導者研修のみの受講者の52%に比べ、より実践内容が深まっていることがわかる。【設問 4】

設問 4：実践内容の深まり度

		全回答数	回答			
			上段：回答数 下段：割合	とても 深まった	深まった	ある程度 深まった
教師 海外 研修	受講あり	16	14	2	0	0
		100%	88%	13%	0%	0%
教師 海外 研修	受講なし	23	12	8	3	0
		100%	52%	35%	13%	0%

**3. 周りへの波及効果について****(1) 学校や団体内の他の職員への波及**

海外研修受講者の他教職員への一人平均伝達人数は49人と、指導者研修のみの受講者の12人に比べ約4倍となっている。伝達方法として多いのは、「日常のやりとりの中で伝えた」81%、「校内・団体内での報告会・研修会で伝えた」50%で、指導者研修のみ受講者より20ポイント以上高くなっている。これらのことから、海外研修では、学校内の他教職員へ高い波及効果が生まれているといえる。

設問 5：所属学校における他教職員への伝達度（複数回答）

		全回答数	回答						一人平均 伝達人数
			上段：回答数 下段：割合	日常のやり とりの中で 伝えた	校内・団 体内での 報告会・ 研修会で 伝えた	研究発表 (授業公 開など)で 伝えた	共同で教 材を作成 する際に 伝えた	その他	
教師 海外 研修	受講あり	16	13	8	5	5	4	0	49
		100%	81%	50%	31%	31%	25%	0%	
教師 海外 研修	受講なし	25	15	7	9	6	1	0	12
		100%	60%	28%	36%	24%	4%	0%	

**(2) 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及**

海外研修受講者の研修や実践を通じた開発教育・国際理解教育ネットワーク化は、指導者研修のみの受講者よりもできている傾向にある。特に、「受講者同士」は100%と、より多くの研修時間を共有していることが反映しているものと考えられる。

設問 6：研修・実践を通じたネットワーク構築度（複数回答）

		全回答数	回答				
			上段：回答数 下段：割合	受講者同 士でできた	フォーラム 参加者と できた	実践を通 じてネット ワークがで きた	その他
教師 海外 研修	受講あり	16	16	6	0	1	0
		100%	100%	38%	0%	6%	0%
教師 海外 研修	受講なし	25	22	9	2	2	0
		100%	88%	36%	8%	8%	0%

## 4. 研修内容への評価

### (1) 事前研修

事前研修の一つの重要なポイントである「学びの3つの柱に沿ったねらいごとの情報収集シートの作成」に対する受講者の評価を聞いた。受講者の18%が「とても役立った」、55%が「役立った」と回答しており、事前研修における情報収集シートの作成が海外研修での学び等に対して役立っていると評価できる。また、受講者からの提案も参考にして、より良くしていくことが求められる。

設問7：「事前研修」における「情報収集シート」作成への評価

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても役立った	2	18%
2	役立った	6	55%
3	ある程度は役立った	3	27%
4	あまり役立たなかった + 役立たなかった	0	0%
	全体(無回答5名を除く)	11	100%

役立った主な理由及びより良くするための提案は、以下のとおりである。

#### <よかったこと>

- ◇テーマごとに質問したいことを出すことで、視野が広がったり考えていない視点に気付かされたりしてよかった。
- ◇テーマごとでチームをつくったことで責任の所在も明らかになり、現地での活動もスムーズにいった。
- ◇日本に帰ってきたときに「聞き忘れた」と思うことがあまりなかった。情報収集シートを作ったおかげだと思う。事前に、みんなで聞きたいことが共有でき有意義な時間であった。
- ◇何をすればいいのか、それぞれの現場で見るべきポイント聞くべきポイントを絞ることに役立った。
- ◇情報収集シートがなければ現地でのインタビューや情報交換会は成り立たなかった。
- ◇学ぶきっかけになった。◇現地でやるべきこと、役割がはっきりした。

#### <より良くするための提案>

- ◇帰ってきてどんな授業を展開したいのかある程度プランがあると、収集したい情報が整理しやすい。
- ◇自分たちの実践したいことをもう少し具体的にイメージしたうえで、それに必要なものを中心に情報収集をした方がよい。
- ◇情報量が多いため、現地での活用方法を明確にするとよい。
- ◇日本できちんと決めすぎても、現地に行くと収集できることは変わってくるので、準備はしておく必要があるが、決めすぎてもそれに縛られてしまうので、そのあたりの工夫が必要である。
- ◇手だてや聞きたいことがテーマを越えて交錯しまとめづらい点もあったので工夫が必要である。
- ◇①テーマごとに質問したいことを出す⇒②訪問先ごとにどんな情報を収集したいか考える⇒③どのような手段(動画、写真、現物など)で収集するか考える という手順に簡素化するとよい。
- ◇情報収集シートを作成する前に、用意された資料を読んでもらうだけでなく、チームみんなで現地について調べたり、調べてきたそれぞれの関心が高いものを共有したりする時間が多くあるとよい。

**(2) 事後研修**

事後研修の一つの重要なポイントである「現地教材を生かしたアクティビティづくりやねらいを達成するための実践プログラムの作成・評価」に対する受講者の評価を聞いた。

受講者の82%が「とても役立った」、18%が「役立った」と回答しており、事後研修におけるアクティビティや実践プログラムづくりは、その後の実践に十分に役立っていると評価できる。

設問8：「事後研修」での実践プログラムづくりへの評価

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても役立った	9	82%
2	役立った	2	18%
3	ある程度は役立った	0	0%
4	あまり役立たなかった + 役立たなかった	0	0%
	全体(無回答5名を除く)	11	100%

役立った主な理由及びより良くするための提案は、以下のとおりであった。

**<よかったこと>**

- ◇実践プログラムを作成し、みんなに「ここがいいね」「こうするといいよ」とアドバイスをもらったことで、みんなに背中を押してもらえた気がした。みんなと作ったプログラムだと思うと、授業の準備や実践もすごく楽しかった。
- ◇みんなの実践や教材を共有できたので、「自分もがんばらねばー!」と気合が入った。
- ◇実践プログラムについて、研修仲間や、JICAとNIEDのスタッフにアドバイスをもらうことで、テーマを見失わずに実践できた。
- ◇様々な実践計画を見聞きすることができたため、自分の実践に生かすことができた。
- ◇2学期に入ると学校業務が忙しくなり、じっくりプログラムを考える時間がとれないため、事後研修で考えた時間はとても有効であった。
- ◇取り入れたいことが多すぎて整理できなくなってしまいそうだったが、周りの仲間からの助言やアドバイスをもらうことで、納得のいくものに仕上がっていった。
- ◇何をすればいいのか、まったくアイデアのない状態だったので助かった。
- ◇他の参加者やNIEDのスタッフにアドバイスをもらうことで、迷っていた部分やアイデア不足だった部分が補足されたり簡潔化されたりして、プログラムがより良くなった。
- ◇ひとりではなく研修で多くの仲間がいるところで作成するとアドバイスがもらえるので安心した。
- ◇新たな実践方法を学ぶことができた。
- ◇自分だけで考えるだけでなく、仲間と交流しながらより良いものを作ることができた。

**<より良くするための提案>**

- ◇現地で集めてきたテーマ別の資料をまとめる(教材化する)時間がもっと取れたらよい。

## 5. 教師海外研修全般に対するより良くするための提案

「教師海外研修全般に対するより良くするための提案」の主な回答は以下のとおりであった。

### <教師海外研修の枠組みについて>

- ◇参加しやすい日程や研修期間を考えていただけたらありがたい。
- ◇事前研修をもう1日増やせたら情報収集シートをみんなで実感をもって作ることができる。
- ◇もう一度行けるなら、より深い学びができる。
- ◇海外経験者も数年おいてチャレンジできるようにする(より視点が広がる)。
- ◇指導者研修に参加した翌年に教師海外研修に参加をする形の方がより深い学びができる。
- ◇受講者の年齢バランスに配慮があるとよい。
- ◇年齢の幅や男女の比率が均等だとだれもが参加しやすいのかもしれない。

### <海外研修前後の活動について>

- ◇訪問する場所について深くリサーチするために、事前にメンバーでよく話し合ったり、確認したりする時間があると、より深い学びが得られたように思う。
- ◇訪問先の状況を翌年も5年後、退職するまでも情報を更新できるような関係を構築できるような仕組みがあると良い。

### <海外研修中の活動について>

- ◇日誌がフリースタイルだと、つい長文になり、後半ほど書く負担が増えるので、枠のある日誌が良い。
- ◇毎夜遅くまで振り返りやワークシートの記入をしたことで睡眠不足にならないように配慮する。

### <その他>

- ◇研修では別々で活動することが多く、もう一方のチームの受講者とももっと交流できるとよかった。
- ◇教師海外研修を終えた受講者とのつながりを深め、今後も継続して学びの好循環を生み出せるようにしたい。
- ◇各国のBOXがとても充実しているのもっと活用したい。BOXの中身を広く紹介して欲しい。

## ● 実践内容の評価

※実践報告書の内容について下記の指標から評価を行った結果をまとめた。

評価は、4 人の評価者が、実践度合いを「なし」0点～「特にあり」2点まで点数化しその平均値で行った。「特あり」は 1.5 点以上、「あり」は 0.5～1.4 点、「なし」は 0.4 点以下とした。

### ● 開発教育・国際理解教育における「学習者の学びの3つの柱」に関する指標

#### 指標① 柱1：学習者が、「訪問国に肯定的に出会う」次のような学びがあるか。

- ① 訪問国を身近に感じられるようになる。
- ② 自分たちとは異なるやり方、考え方、文化をオモシロイ!それもアリ!と思える。
- ③ 自分の当たり前が世界の当たり前ではないことに気付く。
- ④ 自分の中のステレオタイプ/思いこみに気付く。

#### 指標② 柱2：学習者が、「日本と訪問国とのつながりや同一性に気づく」次のような学びがあるか。

- ⑤ 多様な中にも人々の暮らしや感情・希望には多くの同一性があることに気付く。
- ⑥ 人、ものなどを通し、日本と訪問国がつながっていることに気付く。
- ⑦ 訪問国と相互に依存しあい、途上国から様々な恩恵を受けていることに気付く。
- ⑧ 海外で頑張る日本人の想いや活動内容から、生き方・働き方について考える。

#### 指標③ 柱3：学習者が、「共通の課題について共に考え・共に越える」次のような学びがあるか。

- ⑨ 訪問国には誇りがあると同時に、残念なことがあることに気付く。
- ⑩ 各課題の原因を知り、日本や自分たちとの関わりに気付く。
- ⑪ 各課題の現状を知り、放っておくとその国の人や自分たちにどんな影響があるか考える。
- ⑫ 課題解決のためお互いの国が学び合い、協力し合えることに気付く。
- ⑬ 訪問国の課題から、翻って日本の課題を考える。

### ● 学習者主体の参加型、収集教材の活用に関する指標

#### 指標④ プログラムに流れがあり、気づきから行動へとつながるものとなっているか。

- ◇ 学習者の年齢・関心の程度に応じて、その意識の流れに沿ったプログラムとなっているか。
- ◇ 学習者が、「知る、気づく」に留まらず、気づきを基に、「自分にできることを考える、実際に行動できるようにするためのスキルを身につける」ことができるようなプログラムとなっているか。

#### 指標⑤ 学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや手法となっているか。

- ◇ 学習者が内発的に気づいたり、主体性に考えたりできる問いかけや参加型手法を使っているか。
- ◇ 知識伝達のみ・予定調和の答えではなく、学習者が学びあう中で答えを見つけたり、新しい発見ができるようなプログラムとなっているか。

#### 指標⑥ 現地で収集・整理した教材が効果的に活用されているか。

- ◇ 現地に行ったからこそ得られる素材や情報(教材)を活用できているか。
- ◇ 教材の活用として、単に現地について知ってもらうために見せたりするだけでなく、教材をもとに、「想像する」「読み取る」「対比する」「表現する」などができるような加工や問いかけの工夫があるか。

## 1. 学びの3つの柱についての実践度

教師海外研修では、3つの学びの柱に沿って、現地での情報収集や実践プログラムづくりを行った。各授業実践に、3つの学びの柱がどれだけ盛り込まれたかについて、海外研修受講者の実践報告書の評価を行った。その結果は下表のとおりである。

各柱の実践度の関係は、「柱1:訪問国に肯定的に出会う」>「柱2:日本と訪問国とのつながりや同一性に気づく」>「柱3:共通の課題について共に考え・共に越える」となっている。

実践対象や確保実践時間の都合、訪問国で体験できた内容など個々の事情はあるが、「持続可能な開発」をテーマに掲げている教師海外研修でもあることから、できるかぎり、柱2、柱3の実践がなされるようにすることが、今後の課題である。また、実践度が「なし」に区分された実践も各柱 1～2 件あることへの対応も課題である。

学びの3つの柱からみた実践内容の評価結果

学びの柱	実践度(上段:人数、下段:割合)		
	特にあり	あり	なし
柱1:訪問国に肯定的に出会う	12 75%	2 13%	2 13%
柱2:日本と訪問国とのつながりや同一性に気づく	6 38%	8 50%	2 13%
柱3:共通の課題について共に考え・共に越える	4 25%	11 69%	1 6%

## 2. 参加型、収集教材活用の実践度

本研修では、開発教育・国際理解教育を通して、世界における共通の課題解決に向けた行動につながるプログラムの作成、学習者の主体的な学び合いを支援する参加型手法の活用ができる指導者育成をめざしている。また、海外研修においては、現地で得られる教材を活かして実践をすることも求めている。受講者の実践において、関連する3つの指標について評価した結果は下表のとおりである。

3つの指標ともに、ほとんどの受講者が実践していると評価できた。しかし、2つの指標で実践度が「なし」に区分された実践が各 1 件あることへの対応や、実践度がより「特にあり」に区分されるような対応が課題である。

参加型・現地教材活用の実践度からみた実践内容の評価結果

参加型・現地教材の活用	実践度(上段:人数、下段:割合)		
	特にあり	あり	なし
気づきから行動へとつながるプログラムの流れ	5 31%	10 63%	1 6%
主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや手法	8 50%	8 50%	0 0%
現地で収集・整理した教材の効果的な活用	9 50%	6 69%	1 13%